

# 個別の指導計画を生かした「個別最適な学び」の実践事例



## 国語

【つまずきが心配される  
児童生徒の様子】

小学2年生。不注意による、特殊音節の抜けや漢字の覚え間違いが多い。

【指導計画での支援内容】

視覚的なヒントによって興味を持って形を捉え、漢字を正しく覚えることができるようにする。

【教科での支援内容】

動画を見ながら、漢字の読み、成り立ち、ことば、文づくりを確認したり、動画に合わせて書き順を声に出しながら書いたり、手を動かしたりして形を確認できるようにした。

【支援についての評価】

動画のイラスト等をヒントにして漢字の形と意味を結び付けることで、興味を持って覚えることができた。

## 社会

【つまずきが心配される  
児童生徒の様子】

小学3年生。周りがあるものや周りの様子が気になり、立ち歩くなどして学習に集中できない。

【指導計画での支援内容】

10分間座っていられることを目標に、ICT機器を活用するなど工夫し、学習に関心をもって取り組めるようにする。

【教科での支援内容】

調べ学習をしてわかったことをまとめる際にタブレットを使い、文章、絵、写真、動画、クイズ形式の中から自分で方法を選んで取り組めるようにした。

【支援についての評価】

自分がやりやすい方法（動画）を選択したため、よりわかりやすくまとめようと試行錯誤しながら集中して取り組めた。

## 数学

【つまずきが心配される  
児童生徒の様子】

中学1年生。見る力に弱さがあり、板書を写すのに時間がかかるため、先生の話が聞けないことがある。

【指導計画での支援内容】

タブレットで板書の写真を撮影し、ノートの代わりにすることで書く負担を軽減し、集中して話を聞けるようにする。

【教科での支援内容】

苦手な数学では、板書の写真を撮るタイミングを合図したり、大事なポイントを確認したりして、話を聞くこと、問題を解くことに集中できるようにした。

【支援についての評価】

タブレットの利用で書く負担が減るとともに、写真を撮る合図があることで、話を聞くことに集中でき、問題を解く時間も増えた。

## 英語

【つまずきが心配される  
児童生徒の様子】

中学1年生。文字を捉える力に弱さがあり、漢字や英単語はルビつきでないと読むことが難しい。

【指導計画での支援内容】

デジタル教材等を利用してサポートすることで、英単語や英文を一人で音読できるようにする。

【教科での支援内容】

どの文を読めばいいのかがわかりやすいように、テキストの文を一文ずつ区切って意味と対応させたプリントを作成し、デジタル教材の音声とも対応させながら音読練習ができるようにした。

【支援についての評価】

視覚的なサポートと合わせて自分のペースで何度も音声聞けることで、英単語と読みがつながりやすくなった。

# 特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」 ～「個別の指導計画」と教科指導をつないで～

学びにくさのある児童生徒への指導・支援の充実を図るためには、個別の指導計画の効果的な活用が必要です。個別の指導計画をもとに各教科等における指導・支援を計画し、一人ひとりの特性や学びにくさに対応した適切な指導・支援を行うことで、特別支援教育の視点に立った「個別最適な学び」の実現を目指しましょう！



★学びにくさのある児童生徒のアセスメントを実施

★学びにくさを把握し、個別の指導計画を作成

★個別の指導計画をもとに、各教科等における指導・支援について計画

## PDCA サイクルによる 個別の指導計画を中心に置いた教科指導の実践

### PLAN

・単元構想  
・ICT機器等を活用した一人ひとりに合った指導・支援の計画



### Do

・授業実践  
・個に応じた学習



### 個別の指導計画

### ACTION

・個別の指導計画を更新  
・本人・保護者との評価の共有



### CHECK

・有効な指導・支援について本人とともに確認  
・課題の把握



この「特別支援教育の視点に立った『個別最適な学び』～『個別の指導計画』と教科指導をつないで～」のリーフレットは、滋賀県教育委員会ホームページにも掲載しています。

URL アドレス <https://www.pref.shiga.lg.jp/edu/school/tokubetsushien/329964.html>



令和4年度（2022年度）  
滋賀県教育委員会事務局特別支援教育課

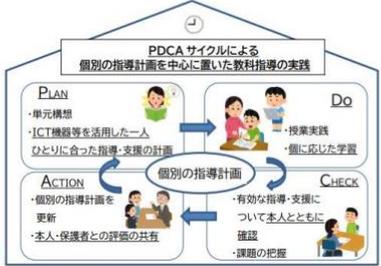
# 個別の指導計画を活用した支援の充実

個別の指導計画を日々の指導・支援や各教科等における指導・支援につなげるための、一年間の活用事例を示したチェックリストです。

## 「個別の指導計画」活用チェックリスト

令和 年度 年 組 氏名 記入者 (年組担任)

1学期	「個別の指導計画」活用事項	実施日	2学期	「個別の指導計画」活用事項	実施日	3学期	「個別の指導計画」活用事項	実施日
児童生徒理解・情報共有	引き継いだ計画の内容を把握した		単元終了時に日々の生活や学習場面で指導・支援の評価をした (必要に応じて支援を改善した)		単元終了時に日々の生活や学習場面で指導・支援の評価をした (必要に応じて支援を改善した)		単元終了時に日々の生活や学習場面で指導・支援の評価をした (必要に応じて支援を改善した)	
	担任と関係者で作成、指導・支援について話し合った <sup>※1</sup>		担任と関係者で指導・支援の評価をした (学年会、支援会議、校内委員会等)		担任と関係者で指導・支援の評価をした (学年会、支援会議、校内委員会等)		担任と関係者で指導・支援の評価をした (学年会、支援会議、校内委員会等)	
	関係機関と作成、指導・支援について検討した (個別的教育支援計画) 関係機関名( )		児童生徒と、日々の生活や学習場面で支援等についての振り返りを行った (単元終了時等)		児童生徒と、日々の生活や学習場面で支援等についての振り返りを行った (単元終了時等)		児童生徒と、日々の生活や学習場面で支援等についての振り返りを行った (単元終了時等)	
指導・支援の改善	保護者と作成、指導・支援についての話し合いや合意形成を行った (懇談、家庭訪問等)		保護者と支援の評価や改善に関わる話し合いをした		保護者と支援の評価や改善に関わる話し合いをした		保護者と支援の評価や改善に関わる話し合いをした	
	外部の相談員やアドバイザーによる児童生徒観察やケース会議を行った		外部の相談員やアドバイザーによる児童生徒観察やケース会議を行った		外部の相談員やアドバイザーによる児童生徒観察やケース会議を行った		外部の相談員やアドバイザーによる児童生徒観察やケース会議を行った	
	単元終了時に日々の生活や学習場面で指導・支援の評価をした (必要に応じて支援を改善した)		児童生徒の支援方法などについて関係機関と相談するなどした (個別的教育支援計画) 関係機関名( )		児童生徒の支援方法などについて関係機関と相談するなどした (個別的教育支援計画) 関係機関名( )		児童生徒の支援方法などについて関係機関と相談するなどした (個別的教育支援計画) 関係機関名( )	
指導・支援の引き継ぎ	担任と関係者で指導・支援の評価をした (学年会、支援会議、校内委員会等)		必要に応じて個別の指導計画を更新した		必要に応じて個別の指導計画を更新した		必要に応じて個別の指導計画を更新した	
	児童生徒と、日々の生活や学習場面で支援等についての振り返りを行った (単元終了時等)							
	保護者と支援の評価や改善に関わる話し合いをした							
	外部の相談員やアドバイザーによる児童生徒観察やケース会議を行った							
	児童生徒の支援方法などについて関係機関と相談するなどした (個別的教育支援計画) 関係機関名( )							
	必要に応じて個別の指導計画を更新した							



個別の指導計画の内容を、関わる教師や関係者、保護者で共通理解し、必要な支援を共有することが大切です。

個別の指導計画をもとに各教科等における指導・支援を考え、実践することで、個別の指導計画と実際の指導・支援をつなぐことができます。

・「個別の指導計画」活用チェックリスト  
・PLAN & CHECK シート  
・ACTION シートの様式は、  
滋賀県教育委員会ホームページからダウンロードして活用いただけます。

実施した支援について児童生徒の気持ちに寄り添いながら振り返ることは、さらなる指導・支援の改善につながるだけでなく、本人が自分自身を見つめる機会になるとともに、児童生徒の学習意欲や主体性を引き出すことにもつながります。

- 個別の指導計画を日々の指導・支援や教科学習での指導・支援につなげるためのチェックリストです。
- 児童生徒に関わる関係者で個別の指導計画の内容について共通理解を図りながら、各々の適切な指導・支援につなげましょう。
- 児童生徒本人との指導・支援についての振り返りの時間をもち、有効な指導・支援を整理していきましょう。
- 行っている支援について、保護者に十分な説明をし、評価について共有しながら支援を継続させていきましょう。

### 切れ目ない支援を次年度へ

個別の指導計画をもとに、各教科等ではどのように指導・支援するのかを考えます。

PLAN & CHECK シート (個別の指導計画等をもとに立案)

日	教科名	学習内容	想定される姿 (得意なこと、苦手なこと)	指導・支援の手立て	児童生徒のCHECK (わかりやすかったことや難しかったこと、頑張ったこと)	指導者のCHECK (手立ての内容やタイムは適切であったか等)	評価 (根拠について明記)
/							
/							
/							

実施した指導・支援が適切であったかどうかを評価し、個別の指導計画を更新します。より児童生徒の実態に合った個別の指導計画にバージョンアップしていくことが大切です。

個別の指導計画等に係る懇談を計画的に保護者と行いながら、必要な支援について共通理解を図っていきます。

ACTIONシート

個別の指導計画等に係る懇談スケジュール

※担任のほか、教科担当・コーディネーター・管理職・連絡担当・養護教諭、関係機関等の対応が考えられます。

前年度の個別的教育支援計画、個別の指導計画、その他引き継ぎ事項等の確認	4月頃 (スタート懇談)	7月頃 (中間確認)	12月頃 (中間確認)	2~3月頃 (学年・学校で共有)	4月頃 (次年度に向けて)
懇談①	○個別の指導計画制作に向けて保護者と懇談し、課題と目標について共通理解を図ります。	懇談②	○個別の指導計画の評価と見直しについて保護者と懇談し、評価と目標について共通理解を図ります。	懇談③	○一年間の個別の指導計画の評価を保護者(本人)と共にを行います。○個別の指導計画、個別的教育支援計画の次年度引き継ぎについて保護者に意思確認をします。
メンバー(※)	メンバー(※)	メンバー(※)	メンバー(※)	メンバー(※)	メンバー(※)
記録	記録	記録	記録	記録	記録

次年度に向けて個別的教育支援計画の整理、個別の指導計画(案)作成、引き継ぎ等の準備